

ラクナ梗塞とは

脳卒中



脳神経外科
脳卒中センター
医師

市川 靖充

脳梗塞の1タイプ「ラクナ梗塞」

脳梗塞には大きく分けて4タイプあり、今回はその中でもラクナ梗塞について説明いたします。

医学的には、ラクナ梗塞とは、脳の深部に生じる小さな(0.5～15mm)脳梗塞のことをいいます。簡単にいえば、脳梗塞の4タイプのうち、最も脳梗塞のサイズが小さい梗塞です。ただし、サイズが小さいからといって、麻痺が小さい・症状が軽いというわけではありません。

ラクナ梗塞の起こる仕組み

医学的な話ですと難しいかと思しますので例えてみましょう。

人間が手足を動かすメカニズムは、脳が電気を放電し、その電気が神経を通過して手足の筋肉に刺激を与え、手足を動かします。さしずめ発電所のようなですね。ここで、脳を発電所と置き換えますと、鉄塔や電線が神経にあたります。手足が電球となります。電球がつかない＝手足が動かないと仮定しましょう。この時、まず電球に異常がないか調べます。つまり手足が骨折しては、もちろん動きません。もし、電球が正常と仮定すると、次に電線が切

れていないか、発電所が壊れていないかを考えます。今回のラクナ梗塞という病気は、脳内のこの電線に異常をきたす病気です。脳内の非常に細い毛細血管が動脈硬化などを起こすことにより、血行が途絶えてしまいます。血行が途絶えるとそこから栄養をもらっている神経が壊死をきたしてしまいます。つまり、電線を支える電柱が一本倒れるようなものです。脳からの動かしたいという命令＝発電所からの電気が、神経が途絶えることにより、手足に伝わらず、麻痺が生じてしまいます。このため、症状としては、純粋に手が動かなくなったり、痺れたりする症状となります。具体的には朝起きて、トイレに行こうとしたら片足を引かずってしまったり、はしを落としたりといった症状となります。こういった症状があればすぐに病院で受診してください。

